

長期生存乳癌患者の薬剤関連顎骨壊死に対して腐骨上義歯により口腔機能維持を目指した 2 例

Two cases of Medication-related Osteonecrosis of the Jaw in long-term survivors of breast cancer attempted to maintain oral function with dentures over the necrosis bone

○國井信彦¹, 小野木宏伸³, 佐々木敏博⁴, 今待賢治¹⁻², 秦 浩信¹

○Nobuhiko Kunii¹, Hironaka Onoki³, Toshihiro Sasaki⁴, Kenji Imamachi¹⁻², Hironobu Hata¹

¹独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター歯科口腔外科

²北海道大学大学院歯学研究院口腔診断内科学

³歯科小野木医院

⁴医療法人社団ささき歯科医院

¹Department of Dentistry and Oral Surgery, National Hospital Organization Hokkaido Cancer Center

²Oral Diagnosis and Medicine, Graduate School of Dental Medicine, Faculty of Dental Medicine, Hokkaido University

³Onoki Dental Clinic

⁴Medical Corporation Association Sasaki Dental Clinic

【目的】 薬剤関連性顎骨壊死 (MRONJ) の管理方法については、いまだ確立されてはおらず、腐骨上に義歯を装着することの是非についても、一定の見解は得られていない。我々は進行した MRONJ のがん患者の腐骨上に義歯を装着し、地域歯科医院と連携しつつ、長期にわたり口腔機能の維持を目指した 2 症例を報告する。

【症例 1】 85 歳女性。乳癌骨転移に対し、当院乳癌外科にて骨吸収抑制薬 (ARD) を長期に使用していた。右上顎臼歯部のブリッジの動揺と上顎の疼痛を主訴に、かかりつけ歯科から紹介により当科初診。当初右上顎 MRONJ のステージ 2 であったが、徐々に拡大し、最終的にステージ 3 まで進行した。当科では ARD の休薬や消炎により、感染をコントロールしつつ、分離した腐骨を適宜分割除去しながら管理を継続した。その間かかりつけ歯科では腐骨上の義歯の調整を行った。初診から 3 年後には骨露出も消失し、咀嚼機能を維持したまま MRONJ の治癒を達成できた。初診から 6 年半経過した現在も、顎義歯により良好な顎口腔機能を維持している。

【症例 2】 71 歳女性。乳癌骨転移に対し、当院乳癌外科にて ARD を長期に使用していた。右下顎の疼痛を主訴に当科初診となった。右下顎の MRONJ ステージ 2 を認め、ARD の休薬や消炎を行うも、MRONJ は下顎骨全域に徐々に拡大した。MRONJ の進行に伴い、下顎残存歯も徐々に喪失し、咀嚼障害も進行した。初診から 6 年半で咬合支持を完全に失ったが、感染がコントロールされた腐骨を覆う形で下顎全部床義歯を作成した。装着後、咀嚼障害は改善し、歯牙喪失前と同じ食形態を摂取可能となった。現在は通院が困難となったため、地域歯科医院と連携し、口腔管理を継続中である。

【結論】 がん患者の腐骨上に義歯を装着することで、咀嚼機能を維持しながら QOL を保つことができた MRONJ 症例を経験したので報告した。